あなたの心にジャストミート 9 月 5 日メッセージ

世を知る人（創世記 11:1-9）

この世は、科学、技術、他の分野もどんどん発展しています。その結果、いろいろな面で変わってきました。これから、発展が続いて、良い世界が作られ、ユートピアも作れると期待する楽観的な希望論を持っている人がいます。反対に、正直に世の中を見たときに、発展したけれどなにが良くなったのか分からないと、厭世主義になって、悲観論を持つ人もいます。悲観的な意見がある人の中でもアグレッシブな人は、ちがう惑星に行って生きることにチャレンジしようとする人もいます。信者である私たちは、すなおに問いかけてみる必要があります。世の中は発展したことは事実ですが、それで良い世界になるのかということです。信者がどのような目でこの世を見るべきかは、とても大切なことです。この世に対して、どんなスタンスを持てば良いのでしょうか。みことばから見てみましょう。

聖書は明確に、この世には終わりがあると書いています。発展しているけれど、間違いなく終わりに向かって進んでいるのです。この地球は永遠に続くものではありません。いまは「終末の時代」と言われているように、終わりに向かって歩んでいます。そしてその終わりは、ハッピーエンドではなく、神様の審判とともに滅びが待っているのです。

神様が創造された世界は、とても良かったのです(創 1:31)。いまのような世界ではなく、完ぺきな祝福の世界でした。しかし、罪を犯した結果、たましいが死に、世界も壊れてしまいました(創 3:16-20)。このように完全に壊れた世界から、人間を助け出すために約束されたのが、女の子孫が蛇の頭を踏み砕く(創 3:15)ということです。そして、実際にこの世にキリストとしてイエス様が来られました(ヨハネ 3:16)。イエス様はキリストとして、すべてを成し遂げて、天に上られました。そのとき、弟子たちに天使が、再び来られること(再臨)の約束を伝えました(使徒 1:11)。イエス様が再臨してこられるとき、いまの天地はなくなって、新しい天と新しい地が与えられます(黙示 21:1)。再臨までの間、地はユートピアになるのではありません。黙示録には、再臨までの間、サタンが自分の時が迫っていることを知って暴れると書いてあり、それが終わると神様の審判があると書かれています。イエス様は、世の終わりのとき、発展してよくなると言われず、苦しみや惑わしがあることを語られました(マタイ 24:6～)。パウロも、この世の有様は過ぎ去ると言います(Ⅰコリント 7:31)。ペテロは、火に焼かれることを言います(Ⅱペテロ 3:4-7)。また、聖書の信仰の人々は、天の故郷を目指している歩みで、地上では旅人だったと証言しています(ヘブル 11:16)。刑務所に 10 年以上も入れられたジョン・バンヤンは、聖書を何百回も読み、そこから出した結論として、この世は、しばらくすると滅びることになっている町だと言いました(天路歴程)。世に対して楽観的に見るのは、人間中心のヒューマニズム、進化論的発想であり、バベルの塔を建てるようなことで、ありえないことなのです。

たしかにイエス様がよみがえられたあと、福音が全世界に広がり、福音が入った地域、時代が変わった証拠があります。それは、サタンが支配していたところに神の国が臨むことを見せるために起こされたことで、当然なことです。しかし、全世界に福音が広がったら、地上が天国のようになるというのは、論理的に飛躍しすぎていて、そのようなことは、聖書には書いてありません。それは、エホバの証人の発想です。滅びるしかないのなら、すべてがむなしいのではないかという消極論もありますが、それも誤解です。

信者は終わりがあると知り、自分が先にいのちを与えられ、神のかたちを回復してもらい、神の国が臨んだ存在です。いまは、神様の創造の世界を管理する責任者として生きるべきです。世のものをもって良い世界が来る希望があるというのではなく、神のかたちをもって世のものを管理するのです。管理人として責任を全うして、神様の栄光をあらわし、神様に栄光をささげる責任があります。管理人という終末的単語を覚えましょう。

管理人なので、この世に希望があると思っている人の考えを変えるために学び、責任をまっとうする必要があります。そうすれば、変化が見えてきて、技能サミット、文化サミットになります。管理人はこの世に希望はないので、世界が暮らしやすくするために生きるのではありません。生きる本当の理由は、福音宣教です。楽観論をもってがんばることでも、悲観論をもってあきらめるのでもありません。この世には希望はないのですが、管理人としての責任を果たすのです。そのために、より積極的に取り組み、福音宣教のために、イエス・キリストの再臨を見て、天国の希望を見て歩むのです。

そのため、まず、信者が神の国を味わうことをいちばんにしましょう。その力をもって、まことの希望である神の国をあかしするのが生きる理由です。すべてのフォーカスを、福音宣教、世界福音化に合わせましょう。これが、クリスチャン、教会の世に対するスタンスです。今日から世に対して楽観、悲観はやめて、暗くて困難があっても、他の人とはちがう理由を持って、積極的に生きていきましょう。世に未練はなく、世のことのために争うことも執着することも、失望することもありません。管理人として挑戦して、管理人の責任をまっとうするちがう次元の生き方をしましょう。それが霊的サミットです。自分のアイデンティティを確認して、信仰告白を確認して、この世に向かっていきましょう。

1 部 － 創世記 11：1-8 世を知る人
なるほど/どんなに発展を遂げてもこの世は終わりがあり滅びることを知る信者は、世に希望を託さず、管理人と伝道者として世を生きる。
ならば/世のものに楽観も失望もせず、真の希望の中で真の希望の答えを与える違う(聖)理由、管理人と伝道者として積極的に人生を生きよう。
2 部 － 使徒 13:48 見落としている伝道
なるほど/聖霊の導きに従って、神の国の力を見て、神の計画を味わう伝道を回復すると、すべての祝福が生かされる。
ならば/まず味わうの祈りを回復して、現場の祈りを通して伝道の胸を抱き、伝道の祈りを通して神様の計画を実現しよう。